

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170600102		
法人名	有限会社ケアカンパニー		
事業所名	グループホーム ゆかい		
所在地	佐賀県武雄市武雄町大字富岡12245-6番地 (電話) 0954-20-0310		
評価機関名	社団法人 社会福祉士会 佐賀県福祉サービス・調査センター		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 19年10月26日	評価確定日	平成 19年12月18日

【情報提供票より】(平成 19年9月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷金	(有) 8万 円		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(10月26日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	70 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中内科医院 持田病院 山口亨歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の周りは学校、病院、スーパーが多く、比較的交通量が多い場所に位置し、木造平屋建てのホームである。高齢者の現在に至るまでの人生に敬意を持って奉仕し、心身ともに「しぼり」のない「ゆとり・かいてき・いやし」という理念を掲げ平穏で快適なホームでの暮らしの中でできる限り継続できるように支援をされている。ホームの中では家庭的で静かな時間が流れ、その中で入居者の方がそれぞれの趣味を楽しみ、役割を持ち穏やかに生活されている。入居者の尊厳を大事にし、ホームが地域の資源として大きな役割を担っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果については会議で報告し、全職員で意見交換し検討改善に取り組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で話し合い、サービスの質の向上に努められている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回、現状報告、意見交換が行われている。今後は更なるサービスの質の向上に繋がる様に地域の様々な分野からの参加を呼びかけ多様な意見を運営に反映されることを期待する。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族の意見や苦情等についてはホームの玄関先に苦情箱が設置され、話しやすい雰囲気づくりの中でよく話を聴き、運営に反映されるように努められている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域活動や行事についての情報を収集し、地域の一員として参加できるように働きかけ、交流を深め、災害時の協力体制の確保についても取り組みがなされることを期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	高齢者の現在に至るまでの人生に敬意を持って奉仕し、心身ともに「しぼり」のない、より質の高い社会生活を送っていただく為に「ゆとり」「かいてき」「いやし」という独自の理念を作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ゆかいの運営理念がホーム内に掲示されており、毎朝全職員で唱和し日々確認、共有され、理念の実践に努められている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人との交流はあるが、地域での自治会への加入や地域活動、行事への参加はこれからの課題となっている。これらの取り組みについて検討がなされている。	○	地域活動、行事等の情報を収集し、入居者が地域の一員として参加できるように地域に働きかけ、地域住民と双方に交流が深まるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で話し合い、改善に努められ、更なる向上を目指し全員で自己評価に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い現状報告し、会議での意見をサービス改善に活かす取り組みがなされている。	○	出席者が定着している為、より多様な意見を頂く為にも様々な分野の参加を呼びかけ、サービスの質の向上を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の担当者とは情報提供や協力が得られるように現状報告を行い、連携に努められている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	4ヶ月毎の「ゆかいだより」を家族に郵送されたり、家族の面会時に健康状態や生活状況、介護記録、金銭管理等について個別に報告されている。また、職員の異動についても報告されている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ホームの相談窓口と共に市や介護保険事務所の窓口が重要事項説明書に記載され契約時に説明されている。玄関の目につきやすい所に苦情相談箱が設置されている。ご家族の訪問時に管理者、職員が話をよく聴き、それを運営に反映させるように努められている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	現在は異動はなく、馴染みの関係を築かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部研修会への参加は積極的に行われている。研修内容を掲示し参加を募り、研修後は職員研修会で伝達、周知が図られている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他のグループホームの見学や、研修会等での交流が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して生活出来る様に、ご本人・ご家族の納得の上で入居されるが、入居後は会話を多く持つことで不安除去や家族の協力を得ながら対応のあり方を個々に工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩であり、支援をさせて頂いているとの思いを忘れず共に過ごし、学び合い支え合う関係づくりに努められている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報も得ながら、日々の関わりの中でご本人の意向や思いを把握され、希望に出来るだけ添うように努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・職員等でよく話し合い、個別的かつ具体的な介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて全職員で見直しを行い、状況変化が生じたときは状況に即した新たな計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助等、必要に応じて柔軟な支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望で、なじみのあるかかりつけ医での継続受診が出来る様に支援が行われている。また緊急時対応や普段より医療機関との情報交換も密に行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医との連携体制はできている。また、入居者及び家族にはターミナルケアについての説明は、契約時に行われている。	○	ご本人・ご家族と終末期に向けた話し合いを繰り返し行い、その意向に基づく終末期の対応指針等をなるべく早い段階に作成し、関係者全員で共有されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として、言葉使いや呼びかけ等理念やミーティングを通して話し合い対応にも配慮され、個人情報保護についても十分に留意されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の一日のペースを大切にされ、すべてにおいて意思の確認をし、入居者に合わせたレクリエーションや趣味活動を提供し、個別性のある支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と同じテーブルと一緒に食事を楽しみながらも見守りがなされている。食材の買出しやゴマすり、皮むき、配膳、片付けなど、手伝いが出来る方は職員と一緒にいられている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は職員数が多い午後に実施されていたが、皮膚疾患のある方やそれぞれの体調や身体状態に柔軟に対応した入浴支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌を歌ったり、外庭を散歩したり、畑を作ったり、テレビを見たりと楽しんでいる。また能力を活かす為に調理の下ごしらえや配膳、片付け等の仕事をお願いする形の場面づくりがなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は外庭を散歩されたり、入居者より希望があった時は、外食や買い物、花見等の外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に出入りできるように玄関の鍵はかけられていない。しかし裏口は転落防止、不審者侵入防止の為に鍵がかけられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携し、年に2回(4月、9月)夜勤体制の設定で実施されている。	○	運営推進会議等を通して地域の消防団や住民に協力を呼びかけ参加を得た非難経路の確認や非難訓練の実施、協力体制の確保を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養摂取量や水分摂取量が入居者ごとに把握されている。夜間も水分摂取が出来るようにペットボトルを居室に準備され、いつでも飲水出来る様に配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	貼り絵や絵手紙、季節の花を飾られ季節感を出されている。リビングにはソファが置かれ、入居者はゆったりと過ごされ、空調にも配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはエアコン、ナースコール、ベッドが備品としてあり、入居者の身体状態に応じて手すりを取り付けたり、使い慣れた家具や生活用品を自由に持ち込まれ、安心して過ごすことができるよう配慮されている。		